

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	重力波観測時代に臨む較正標準化とデータ解析高精度化
研究代表者	<p>神田 展行 (大阪市立大学・大学院理学研究科・教授) ※平成29年6月末現在</p>
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、昨年地上観測に成功した米国重力波観測装置 LIGO の成功を基に、重力波天文学の幕開けを実現すべく、日本の重力波観測装置である KAGRA のデータ解析の高精度化と、重力波波形の測定精度の改良や較正標準を確立するためのものである。KAGRA の建設が進んでいる現状で、データ解析精度向上や、海外の観測装置との系統誤差を下げて同時観測に耐えうるシステムの構築は、今後の重力波観測の上で重要な研究である。</p> <p>応募者らは、この種のデータ解析において大きな実績があり、LIGO などの研究組織との連携も実績がある。喫緊の課題として基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>